

令和5年度 真和中学・高等学校 学校評価

学校目標	「誠・信・望」の校訓のもとに「和」を重んずる豊かな人間性と、進んで「真」を追求する向学心と、社会に貢献しようという高い意欲を合わせ持つ生徒を育成する				
具体的目標	○ 全教科・全領域で報恩感謝の心を育てる		○ 言行に品位・品格が発露する態度を養う		
	○ 基礎・基本の充実、自調・自考による真(深)の学力を培う		○ 健全な身体・心の育成を図る		
	○ 人への礼譲・勤勞の智慧に通じる掃除の徳を体得する		○ 登下校時の四恩塔一礼を定着させる		
	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ①募集・広報活動の充実(生徒数確保) ②中高一貫校としての教育課程の確立(6年間を見通した教育活動の計画と探究活動内容の検討) ③学力向上の取組/生徒の希望の具現化 ④教師の指導力向上のための職員研修の充実 ⑤場面に応じたICT教育の実践 ⑥地域貢献と体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校職員全体の、生徒募集についての意識向上・塾訪問、小学校・中学校との連携、広報の手段を広範囲に考え実践する ②6年間を見通した行動計画の整理 ③スタディサプリ・クラッシー等の導入と、成果と検証・学力分析の実施 ④外部の先進校視察研修への派遣 ⑤担任へのパソコン配付と授業及び校務への日常的な活用 ⑥地域と連携したボランティア活動の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①塾訪問：小中学校訪問・進路変更の生徒の転校先への訪問、医歯業同窓会へのポスター配付 ②学校教育目標達成のための行動計画の整理は完成した ③進路部を中心に学力分析会は頻繁に行われ、導入による教育成果は向上している ④若手教師を中心に各方面への研修会へ派遣するとともに、全国大会等への出場による研修成果も同様の役割を果たしている ⑤担任へのPC配付により、朝礼連絡等ペーパーレス化が図られた教科指導へも日常的に活用 ⑥レオクラブ、JRCの発足や、地域公民館との連携による地域貢献活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①志願者数の増加のために現状の把握を年度末に実施・入学生の本校志願理由の調査を行う ②魅力ある6ヶ年を通した教育活動計画になりえているかの検証をする ③年度末に教科主任を中心に全学年の学力分析と対策について考察を行い対策を考える ④次年度の研修計画を学年主任・進路部長により立案 ⑤日常的なPCの活用の定着 ⑥6年間を見通した計画立案と日常的な地域貢献活動の計画性ある実施
①総務部	<ul style="list-style-type: none"> ①校務分掌や各学年との連携を深め迅速適正な処理を行い年度末や年度当初の企画立案をする ②年間行事や入学式、卒業式等の企画立案をする ③教具、用度品の購入管理、消耗品の管理について無駄をなくし効率的に使用する ④寮保護者会、育友会総会、役員会の企画立案し、保護者との連携、調整に努める ⑤学校要覧、真和通信、育友会だよりの編集、管理を行う ⑥全職員との共通理解のもとに教育計画の充実と達成に努力する ⑦学寮の寮生の生活について寮監と連携して行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①年度当初計画を2月中旬を目途に行う ②年間行事については・年度の12月までに各部より計画立案を行ってもらう卒業式の計画を1月中に行い、2月中より全職員へ準備を行うように周知させる ③専門の事務職員が職員室に常駐することで教具、用度品消耗品の購入管理を効率的に行う ④コロナ禍前の状況に近づけながら、効率の良い方法を模索し、より充実した行事を行う ⑤奨学生制度の見直しに対応しながら、真和通信、学校要覧を製作する保護者会と協力して育友会活動の様子等を報告する新聞を発行 ⑥教務部と連携し講演会や芸術鑑賞などを企画 ⑦寮生の生活環境について寮監と連携して快適な環境づくりをする 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①4月の始業式・入学式の日程を計画した ②各部署からの計画を出してもらい、日にちの調整を行った ③消耗品の管理は教員が行っているしかし、3学期より職員室に校務支援員の配置がなされた ④育友会の活動が非常に活発であり、文化祭、強歩会などとても充実した活動であった ⑤真和通信の原稿をもらうことが遅くなってしまった育友会より学校HPに活動の様子をのせている ⑥量子物理の講演、卒業生による芸術鑑賞会など生徒へ向けて様々な行事を行うことができた ⑦寮内での問題に生徒指導部や学年団と連携して取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度の行事予定を12月を目途に各部署より計画を行ってもらう ○3学期から職員室に校務支援員の配置がなされた消耗品の管理については改善された ○生徒が行事を通して、感性を磨いたり、様々な興味を引き出せるような企画をする最新の科学や芸術に触れるようなものを企画する ○入学式や卒業式などの式典を無事に行えるように細心の注意を払う ○学寮については生徒指導の部分が大きく占めるため、生徒指導部による学寮の指導が望まれる
②教務部	<ul style="list-style-type: none"> ①6年間を見通した教育プログラムの確立 ②新学習指導要領に適合した教育課程の確立 ③進級規定の見直し ④総合学習・探究の充実 ⑤模試の授業化 ⑥定期考査の位置づけ ⑦指導要録・出席簿、教務日誌の効率化 ⑧授業力向上 ⑨低学力生徒の指導の充実および学習習慣の確立 ⑩スタサプの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①未実装の教科がある状態なので、要改善 ②実施しながら改善点の模索 ③中学生にも赤字と追試を導入する ④大学入試のため(主に総合型合格のため)にどう役立たせるか ⑤模試の予習復習の徹底 ⑥考査間隔をすべて7～8週にして実施中 ⑦デジタル化のソフトの導入(予算が必要) ⑧生徒アンケートの実施による授業改善 ⑨週テストの実施 ⑩授業に活用する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①現場の教師の都合でカリキュラムが改変されている ②現在高I・II年生で実施中順調 ③話し合いを持っていない ④各科で実施中 ⑤実施済み順調 ⑥授業の効率化が図れている ⑦予算が必要であり、事務局とは未協議 ⑧未実施 ⑨週テストは定着している ⑩高III私文のみカリキュラム化できているが、他学年は活用していない 	<ul style="list-style-type: none"> ①国数社理英は当然として、すべての教科で中高一貫のカリキュラムを、教師の都合で実施しないということが絶対ないようにする ③職員会議をする ④学年や担当者によってやるものが違ったりすることがないように、大筋は統一するあくまで大学合格が目標であり、公立と同じことはしない、公立のことは考えないようにする ⑦出勤や年休等、職員の動静をデジタルにする必要がある他校と比較してもアナログに偏り過ぎている ⑧生徒の本音の満足度をはかる必要がある ⑨不合格者が固定し始めている点、軽いいじめのようなことが起きている点が問題 ⑩次年度は採用を含めて要検討私文は教材として購入予定

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
③生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめの早期発見・早期指導 (毎月一回のいじめアンケート) ②SNS利用のマナー ③挨拶の励行 ④自転車通学のマナー (イヤホン、ながら運転等がないように) ⑤服装・身だしなみの徹底 ⑥自転車通学生ヘルメット着用を薦める ⑦自転車安全利用モデル校としての取り組みを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ①いじめアンケートの毎月実施による早期発見 ②学年集会での専門家による情報モラル授業の実施 ③正門での四恩塔一礼の徹底、気持ちの良い挨拶の実施 ④登校下校時、左側通行及び交差点での安全確認の強化下校の際、全員正門から左側へ下校の徹底イヤホン等の着用がないように徹底市生連の交通巡視、一般巡視の機会も活用していく ⑤職員室等の入室時や各クラス、各授業担当者で、該当生徒への指導を行う ⑥熊本市、中央署との連携を図り、生徒に促していく ⑦熊本市、中央署との連携を図り、全生徒に取り組みを提案する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月一回のいじめアンケートの中で、入力をしてくれた生徒には早期に声かけなどを行った ②各クラスや学年で定期的な呼びかけや学年での情報教育を実施できた ③正門での四恩塔一礼は登校時は良くできていた廊下での挨拶は良好であった授業時の挨拶はクラスによって差があるのが現状である ④下校時に正門から右側通行で出ていく生徒が増加した次年度への課題であるまた、市生連の交通巡視の際、生徒指導部全員で日常を確認し、指導することができた ⑤生徒によって差があるのが現状である男子のシャツ出し、ネクタイやリボンの緩み、第一ボタン外れの生徒があり、先生方への呼びかけももっと必要と感じた ⑥熊本市よりヘルメット40個の寄贈もあり、他校に比べ、ヘルメット着用率が高かった ⑦生徒DJポリス、標語、ポスター作成実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の些細な変化にも気づくように、実施後の先生方への呼びかけを強化する ②全学年において実施すべきである ③職員への呼びかけの頻度を上げる登下校時に生徒指導部で正門に立つことが必要 ④年度当初から常に呼びかけ、下校時に生徒指導部で立つことが必要 ⑤朝のスタート時からの徹底を各担任に細かく呼びかけ、各集会ごとに生徒への呼びかけを継続して行う ⑥継続して自転車安全利用モデル校に立候補し、取り組みの機会を増やし、今年以上に着用率を上げる ⑦⑥と同様
④進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ①中高一貫教育の中での進学指導・進路指導 ②新大学入試に関する情報共有とその対策 ③多様化する大学入試への対応 ④総合型選抜、学校推薦型選抜入試受験生対応 ⑤大学入学試験問題・模擬試験問題、入試結果等のデータのデジタル化およびその保存システムの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ①実社会で活躍している社会人や真和の先輩方から大学や職業に関する話を聞く機会を設ける高校生対象の講演会でも中学生の参加も募る ②新大学入試に関する情報について共有フォルダーにて情報共有を行う高校Ⅰ・Ⅱ年の担任・副担任は予備校や教育業者の説明会に積極的に参加する ③大学への出願要件に特別活動報告書や英語検定試験の証明書等の提出を求める大学が多くなった生徒各々受験希望の大学の出願要件を早くから調べ、高校Ⅰ年から意識して行動させる ④総合型選抜、学校推薦型選抜入試受験生への個別対応可能な組織作り ⑤学校内共有フォルダ「模試」のデータ充実と活用進路関係データについては、進路室のパソコン内に一括管理する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①7月中学Ⅰ年キャリア教育講演会、8月東大特別講義最先端科学、早稲田大学原教授講演会、9月夢リレーリターンズとして大学4年生13名との交流会等、全学年対象に様々な講演会を実施することができた ②Public進路フォルダーを活用して情報共有が積極的に行えた11月北予備連絡協議会には12名の先生が参加新大学入試の情報を得るとともに教科指導法も学んだ ③各クラスのホームルーム等の時間に自ら大学について調べる時間を取ったまた、二者面談を積極的に行って大学入試についての意識付けができた ④小論文・面接・集団討論等の指導について、昨年度同様個別対応が実施できた今年度は大学別・志望学部別入試教科特別対策の夕課外授業を昨年度より1ヶ月早く9月より開始できた ⑤模試データの共有フォルダーへの保存が徹底された推薦入試の問題データは積極的に予備校からいただき、本校の受験希望者が多い大学の入試問題の保存に努めた 	<ul style="list-style-type: none"> ①中高一貫6カ年教育の中での進学指導・進路指導カリキュラムの構築 ②中等部・高等部の進路指導面での連携実施する模試の選定および模試実施前後の対策・復習の定着 ③新課程入試に関する情報共有とその対策 ④「総合型選抜」「学校推薦型選抜」、そして更に増加している大学独自入試への個別対応
⑤保健体育部	<ul style="list-style-type: none"> ①健康意識の向上 ②基本的な生活習慣の確立 ③安心安全な教育環境 ④感染症対策 	<ul style="list-style-type: none"> ①保健講話・検診の実施により意識を高めるとともに、保健だよりを配付する ②中学生はフォーサイトの活用と担任指導、保健の授業による教科指導高校生は、HRでの担任指導と保健の授業による教科指導を実施 ③保健委員による水質検査や健康カード、各学期における施設設備点検、美化委員による環境美化活動の実施 ④情報収集、換気・マスク着用・手指消毒の声かけを実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①計画通りに実施することができた ②担任指導・教科指導ともに、ほぼ実施できた ③保健委員会や美化委員会の意識が高まったように感じる施設・設備等の点検については、修理・修繕スピードを検討したい ④コロナ感染症がインフルエンザと同レベルの扱いとなり、換気の徹底ができないクラスがあった特に、冷房や暖房を使用する時期は、教科担当者が毎時間意識的にチェックすることが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ①②特になし ③施設・設備の修理・修繕について、鎮西高校や事務局との連携の部分での共通理解 ④教科担当者の意識改善

校務分掌	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
⑥募集入試対策部	<ul style="list-style-type: none"> ①中学入試改革の更なる改善 ②塾や小学校等訪問による広報・募集活動の充実 ③「学校案内」「生徒募集要項」での正確でわかりやすい情報の提供及び学校・塾等への速やかな資料提供 ④オープンスクールや入試説明会及び各中学校の説明会での広報内容の充実 ⑤HPに最新の情報を掲載し魅力ある学校の広報に努めるまた、各種説明会についての周知を図り、募集要項を掲載してWEB出願の内容について周知を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校の奨学生制度及び専願生入試の改革の結果をもとに更なる改善に取り組んだ ②「学校案内」完成後は早い時期に塾等を訪問して良好な関係を築き、本校の魅力の発信に努めた ③「学校案内」「生徒募集要項」への正確な情報の掲載また、完成後速やかに県内の中学校、教育機関へ資料発送した ④オープンスクールでは生徒達が進行や発表で大いに活躍した各説明会では説明内容を工夫して真和をアピールした ⑤入試説明会や入学試験についてHPに早期掲載して周知を図るとともに問い合わせや資料請求についても迅速かつ丁寧に対応した 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校奨学生制度改革によりS,A,B奨学生が複数年継続となり魅力ある奨学制度となり、専願生試験では面接の改善に取り組んだ ②熊本城ホールでのオープンスクールや入試説明会は、生徒の活躍及び全職員の協力で円滑に実施し好評であった ③塾についてはそれぞれの担当者が訪問して本校の魅力について資料を提示して丁寧に説明し良好な関係の構築に努めた中学入試強化のため小学校への訪問も実施した ④HPへは、情報の早期掲載を心がけ、周知を図った ⑤中学入試・高校入試とも全職員協力の下、トラブルなく無事に実施することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ①次年度の「学校案内」作成について、12月中に業者を決定し年明けから作成に取り組むことで、6月の私立中学入試説明会までに完成させる ②オープンスクールについては全体の意向を聞いて会場を決定し、魅力ある内容にする ③塾訪問は「学校案内」完成後早期に定期考査の午後等を利用して訪問し、資料を持参して最新の情報を届ける ④中学入学試験の英語の導入については、十分に検討し、説明会等で周知を図る専願生試験の面接については、質問事項を再考して実施する
⑦事務部	<ul style="list-style-type: none"> ①就学支援金申請のオンライン化への確に対応する ②校納金の受納事務を的確に行い滞納等がないようにする ③校納金の納付について保護者の負担を軽減する ④生徒の校内生活が快適となるよう、施設の整備を行う ⑤学校内で使用する備品や消耗品について、円滑な教育活動が行えるよう管理や調達を的確に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①私学振興課からの情報収集、保護者等への操作マニュアルの提供、保護者等からの質問への迅速な対応を行う ②滞納者には適時に督促を行う ③新入生の4月のみ銀行振り込みとしていたのを4月、5月2ヶ月分一括の口座振替えができないか検討する ④-1本館の女子生徒用トイレにウォシュレットの設置を行う ④-2ピロティに生徒と生徒が面談などに使用する談話セットを配置する ④-3真和女子寮の老朽化したエアコンやトイレを新しいものに更新する 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者への文書やメールにより周知できた ②授業の年度末時点での滞納はない ③令和6年度から実施するよう段取りができた ④-1令和5年度中に工事完了 ④-2令和5年12月に設置完了 ④-3令和5年7月に工事完了 ⑤授業等に支障がないよう速やかに対応した 	

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし

学年経営

中学	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
中学校1年	<p>1 真剣な学習</p> <p>①朝の時間の学習習慣の定着</p> <p>②家庭学習</p> <p>③学習計画</p> <p>④模試の活用</p> <p>2 キャリア教育・探究活動の充実</p> <p>①キャリア教育の一環としての学校行事</p> <p>②フォーサイト手帳の活用</p> <p>3 調和した生活</p> <p>①自主的な清掃活動</p> <p>4 気づき・考え・実行する特別活動</p> <p>①生徒会・委員会活動</p> <p>5 その他の重点指導事項</p> <p>①服装・挨拶</p>	<p>1①時間前に着席し、各自の課題に取り組みさせる</p> <p>②その週の予習や復習の習慣化</p> <p>③学習計画を立て継続的に取り組ませる</p> <p>④模試を通して全国レベルを知り、レベルアップを図る</p> <p>2①職業講話や企業訪問の実施</p> <p>②手帳を活用し、毎日の生活や学習状況の把握</p> <p>3①各自の役割を理解した掃除担当箱の整理整頓</p> <p>4①先輩と協力し、生徒会・委員会活動に積極的に取り組む</p> <p>5①朝礼時の服装の確認と元気の良い挨拶と合掌を心掛けさせる</p>	B	<p>1①おおむね時間前着席ができ、静かに取り組むことができた</p> <p>②授業中は集中して取り組み、計画的かつ継続的な家庭学習を取り組ませた</p> <p>③定期考査毎に振り返り、計画的に実行させた</p> <p>④約半数がアドバンス模試を希望した計画的に問題集を取り組むもとにより意欲が高まった</p> <p>2①先輩の講話、肥後銀行や金剛の企業訪問の経験により自分の進路について考えた</p> <p>②毎日の学習計画や準備物の確認ができた</p> <p>3①美化委員の定期的なチェックを行った</p> <p>4①各委員会の活動内容の発表の機会を持った</p> <p>5①朝礼時は姿勢を正して、挨拶や合掌させることができた</p>	<p>1 基本的な学習習慣は身につけつつあるが、下位層のレベルアップを行っていく必要がある</p> <p>2 本校の卒業生による職業講話は、生徒たちが身近に感じ、自分の進路について早めに意識するようになった</p> <p>3 一人ひとりが責任を持って掃除に取り組んでいた担当箱の整頓については、個人差があったので改善をさせていきたい</p> <p>4 各委員会において、積極的に意見を出し、決定したことをクラスできちんと報告できた</p> <p>5 服装は、おおむねきちんと着用できていた朝礼時の合掌は声が出ていてとても良かった</p>
中学校2年	<p>1 真剣な学習</p> <p>①朝の時間の学習習慣の定着</p> <p>②定期考査への取り組み</p> <p>③週テストへの取り組み</p> <p>④模試対策</p> <p>2 キャリア教育・探究活動の充実</p> <p>①キャリア教育の一環としての学校行事</p> <p>②フォーサイト手帳の活用</p> <p>3 調和した生活</p> <p>①自主的な清掃活動</p> <p>4 気づき・考え・実行する特別活動</p> <p>①生徒会・委員会活動</p> <p>5 その他の重点指導事項</p> <p>①生徒の友人関係のトラブル</p> <p>②挨拶やマナーについて</p>	<p>1①朝礼前に課題を解く</p> <p>②生徒自身が定期考査へ向けての計画をたてる</p> <p>③基礎力を培う指導を行う</p> <p>④模試を通して全国での成績を確認させ、より深い学習を行う</p> <p>2①エナジードを活用する修学旅行などで大学や企業を訪問する</p> <p>2フォーサイトで毎日の記録を行う</p> <p>3①毎日の掃除の徹底教室の環境整理</p> <p>4①生徒会の活動や委員会の積極的な参加</p> <p>5①教員と生徒との対話を図るまた、保護者との密な連絡を行う</p> <p>②身だしなみや挨拶といった基本的なことを注意していく</p>	B	<p>1①毎日朝礼前の15分間に問題を解かせた</p> <p>②家庭学習の計画表を提出させた</p> <p>③数学・英語の基礎力をつけるため放課後指導</p> <p>④模試やZ会アドバンス模試の特別指導実施</p> <p>2①エナジードを活用してプレゼンテーション能力を向上させた熊大薬学部、京都大学、企業等を訪問し、進路選択について考えた</p> <p>②積極的にフォーサイトに記録させてた</p> <p>3①担当掃除区域の掃除の徹底棚の片付け</p> <p>4①生徒会活動に積極的に参加し、文化祭などの学校行事は高校生とともに活動し、成功させた</p> <p>5①生徒間の関係について担任・副担任が生徒の成長に注意しながら保護者と連携して対応した</p> <p>②制服の着方や授業での挨拶指導をした</p>	<p>①学習の効果を更に高め、家庭学習の徹底を行う必要がある</p> <p>②中学2年生という生徒の成長段階において非常に難しく、生徒や保護者との連携を密に行う必要がある</p> <p>③卒業論文に向けて良い準備を進めていく</p> <p>④生徒の積極性を引き出すような指導が必要である</p> <p>⑤人に迷惑をかけないといったマナーに関する話は常に続けていきたい</p> <p>⑥服装の徹底、挨拶の大事さを更に伝えていきたい</p>
中学校3年	<p>1 真剣な学習</p> <p>①朝の時間の学習習慣の定着</p> <p>②週テストへの取り組み</p> <p>③定期考査への取組み</p> <p>④模試への取り組み</p> <p>2 キャリア教育・探究活動の充実</p> <p>①キャリア教育の一環としての学校行事</p> <p>②フォーサイト手帳の活用</p> <p>③論文作成</p> <p>3 調和した生活</p> <p>①自主的な清掃活動</p> <p>4 気づき・考え・実行する特別活動</p> <p>①生徒会・委員会活動</p> <p>5 その他の重点指導事項</p> <p>①挨拶・礼儀・マナー</p>	<p>1①担任が教室へ行き、良い1日のスタートがきれいなよう声かけを行う</p> <p>②定期考査に繋がるよう、その週の復内容が定着するように、HR・授業中に声かけをし続ける</p> <p>③毎時間の授業に集中し、計画的かつ継続的な家庭学習を心掛けさせる</p> <p>④Z会アドバンストレーニングにより、上位層のレベルアップを図るスタサブの活用充実</p> <p>2①話し合いの場や活動をする機会を多く設け、適宜必要な助言を行うまた、熊大医学部訪問研修に向けての準備を行う</p> <p>②朝礼時には常にメモを取る姿勢をとり、定期的に担任が目を通す</p> <p>③来年度の完成に向けて各先生方連携を図り取り組みを進める</p> <p>3①美化委員を中心に自主性を促す</p> <p>4①中学部の中心として各行事に対して適切な運営ができるよう、指導していく</p> <p>5①礼儀正しい挨拶を心掛けさせる</p>	B	<p>1①習慣化しおおむね達成できた</p> <p>②週テストに向けての準備はよくできていたまた補習はとても効果があった</p> <p>③定期考査ごとに反省させ、必要な生徒には担任が二者面談を行い定期的に指導した</p> <p>④スタディサブリの活用には個人差があったZ会アドバンストレーニングの取り組みで、全体的に思考力の発展があった</p> <p>2①話し合いの場では多くの発言があり、熊大医学部の訪問研修はとても充実したものとなった</p> <p>②忘れ物、日程間違いが減少した</p> <p>③各担当の先生と協力をし、次年度の完成に向けて取り組みを充実させた</p> <p>3①各委員会と協力をし、両クラスともに自主的な清掃活動を行うことができた</p> <p>4①行事の運営や取り組みについて、中学生徒会を中心に積極的な話し合いができた各行事において、それぞれの役割をしっかりと全うした</p> <p>5①自発的な挨拶ができるようになった</p>	<p>1①学習の効果を更に高め質を上げる必要がある</p> <p>②大学入試を見据え、取りこぼしがないように学習の習慣化を図る</p> <p>③②の積み上げを行い、余裕を持って定期考査に迎えるような習慣化の徹底</p> <p>④受験前に大学入試を強く意識させる</p> <p>2①行事前の調べ学習の徹底</p> <p>②メモを取る習慣の徹底</p> <p>③次年度完成に向けてペースを上げての指導</p> <p>3①委員会からの提案を増やす</p> <p>4①生徒会、委員長だけではなく、生徒全員が活躍できる場を増やす</p> <p>5①様々な例を示し、服装の徹底、挨拶の大事さを更に伝える</p>

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし

学年経営

高校	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
高校1年	<ul style="list-style-type: none"> ①新たな高校生活を新たな気持ちでスタートさせる 真和高校に親しみ、先生方や友人との新たな関係を築く ②高校生活に慣れ、高校での学習の習慣を確立させる ③自己を分析し自分の適性を見極め将来の目標を立てさせる ④年度末の文系・理系のコース選択に際して必要な、2025年度からの新大学入試についての情報と、本校の次年度以降のカリキュラム及び教科の特徴を、生徒・保護者と情報を共有する ⑤修学旅行の計画実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①3・4・5組生徒対象オリエンテーション実施各部、各教科の先生方の講話、各先生方の紹介と共に、実際に各教科の予習・復習等の学習体験実施5・6月には、2回に分け、全員本学園発祥の地である久留米の善導寺にて1日研修を実施し、情操教育の深化を図り、生徒間の相互理解を深めた ②週テスト後の補講を通じて、英語・数学の学習習慣ができていない生徒への指導を継続的に実施する ③7月の進路講演会、11月の職業版夢リレーを通して、社会人からの生のアドバイスを元に、自分の目標設定、または見直しを促す ④12月の文理選択説明会を中心に、文理選択をテーマとした、生徒・保護者間のコミュニケーションを促す ⑤班別企業訪問研修を中心に、生徒の自主性を重んじた研修時間を多めに設定し、生徒の満足度を高める 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①真和高校のルーツを知ってもらい、共生の精神を感じてもらったことができた大半の生徒が高校生活を気持ちよく送っている ②学習習慣の確立が上手くできている生徒が大多数だが、英語・数学以外が日頃全く手につかない生徒や、長めの休みの後、学習習慣がリセットされてしまう生徒もいた ③進路講演会、夢リレー共、講演者の感触や生徒の反応がとても良く、将来を見つめる良い機会になったようである ④受験情報や、文理選択に必要な様々な情報を提供できたので、コース選びがスムーズに進行中である ⑤一年の中で最も寒さ厳しい時期の研修にせざるを得ない状況の中、生徒と担任が良く協力して、主体的に取り組むことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍が終わったので、オリエンテーションに音楽も入れて、校歌と宗歌の練習時間を入れた方が良い ②週テストを英数国に固定せず、学年の必要性に応じて、柔軟に運用できるようにした方が効果的である ③各学年の講演等が集中する月があり、場所の確保に苦勞する事が多々あった講師の日程もあるので、学年間の日程調整を早めに行った方が良い ④受験情報の提供方法と機会を増やすようにしたい ⑤前年度の早い時期に実施時期を決めて、宿と交通機関を押さえておかないと、毎年厳寒期にしか実施できなくなり、生徒の健康管理が大変になると思われる
高校2年	<ul style="list-style-type: none"> ①受験に向けた学力の充実 ②早い時期に受験を意識させる ③新入試制度に向けての情報共有をする ④学校の核として意識させ、行事や部活動を牽引させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①模試・クラッシーを活用する事前・事後学習を徹底し既習内容の復習と弱点を補う ②入試問題を早期に取り扱うことにより、必要な学力レベルを設定させると共に、小論文対策等にも積極的に取り組むまた、志望理由書の作成し目標を強く意識させる ③共通テスト、各大学の入試について模試の問題等から変更を確認推薦入試の概要を共有する ④行事等を自分たちで企画運営させ、達成感とリーダーシップを培う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①事前準備を行い、弱点部の成績の向上に繋がった事後学習については個人差ができたので、さらに指導上の工夫をしていきたいクラッシーの振り返りをしている生徒は成績に反映されている ②各教科、入試問題を解く機会を増やすことにより1年後までに必要な学力を知る機会を作った7月に長谷先生による小論文の講義を受けたまた、11月の長谷先生の国語特別講義へも積極的に参加した9月には、卒業した大学4年生16名に各大学の特徴や進路決定のアドバイスを受ける機会を作った ③進路講演会や面談を利用し適宜情報を流した ④生徒会を中心として、文化祭等の行事を主体的に実施することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ①すべての生徒が取り組むことができるようにしたい ③④共通テストにおける情報試験の取り組みへの意識づけをする入試制度の変更点を今後も継続して共有する
高校3年	<ul style="list-style-type: none"> ① 推薦入試の出願要件の明確化 ② 志望理由書の書き方指導 ③ 模試受験後の復習 ④ 夕課外出席率アップ ⑤ 進路決定後の生活習慣指導 	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路講演会（6月）と三者面談（7月）とで出願要件や規定について周知する ② 志望理由書添削模試を6月に計画する ③ 教務部に授業での解説の時間を確保してもらう ④ 進路部と連携し、欠席理由書の提出を義務化する ⑤ 生徒指導部の協力を得て、進路決定者指導を12月に計画する 	A	<ul style="list-style-type: none"> ① 進路講演会に欠席された保護者の中に、規定を理解せず推薦入試での応募を希望されるケースや、生徒の一部に締切期日から書類提出が遅れるケースなどが散見された ② 各自の進路意識の明確化、見える化を図る目的は概ね達成できた ③ 非常勤講師に十分理解し、実践してもらえたか検証が必要 ④ 無断欠席の抑止効果で一定の成果は見られた ⑤ 集会に欠席した生徒が複数いた 	<ul style="list-style-type: none"> ① 推薦入試に関する規定の周知を図るため、進路講演会への保護者の出席率を高めたい ② 職員対象の小論文指導者研修会とともに、取り組みを定着させたい ③ 非常勤講師も含めて、全教科、全担当者で意識を持ちたい ④ 学年集会などでの生徒の意識向上の機会を今後も持ちたい ⑤ 高Ⅲ学年団が価値観を共有し、協力してもらえたことは有難い

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし

教科指導

中学 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
国語	課題：①基礎的・基本的な学習内容(特に基礎的な語彙力、漢字力)の定着 ②思考力・判断力・表現力の一層の育成 ③学習意欲の向上 目標:進路実現に必要な国語の学力を身に付ける	①基礎的な語彙・漢字についてのテストを継続して行う ②発展的な内容の学習や表現活動の場を設定する ③教材を工夫し、系統的・計画的な家庭学習の課題の工夫を行う	B	①一定の成果はあったが、個人差が大きくなる傾向が見られる ②小論文模試やアドバンスト・トレーニング等に全生徒で取り組ませることができた ③中高一貫の6年間を見通し、高校の教材の活用等、計画的に指導を行うことができた	①個別指導の工夫が必要である ②他教科や総合的な学習の時間、学校行事等との連携を図り学習活動の一層の充実を目指す ③より意欲的に家庭学習に取り組むような評価の工夫を行う
社会	①社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を養う ②図版や映像資料をもとに、内容を把握し、分析し考える力を養う ③地理分野と歴史分野に関して、高校での地理総合と歴史総合の学習に繋がるよう、基本的な知識を身に付け、理解を深める	①社会事象について、新聞やテレビ、インターネットなどの最新の情報をもとに授業時に取り扱い、教科の学習だけでなく、世の中の出来事についての興味関心を持つように指導する ②地理分野・歴史分野・公民分野の知識・理解を断片的なものとすることなく、生徒たちに、世の中の出来事を考える上で「活きた知識・理解」とするために、意見見交換発表の場を設ける	B	①地図や史料を、プロジェクターを活用しながら解説することで、より深い理解につなげることができた ②各クラスとも適宜時事問題を取り扱い、生徒の興味関心を深めることができた	図版や映像資料等を使って、基礎的な知識を確かなものにするその基礎的な知識を土台として、社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を身につけさせたい
数学	①生徒の、中学校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育成する ②6年間の指導とその後の各自の進路希望を見据え、進路希望が達成できる数学の学力を養成する ③各クラス間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、学年全体として効果的な生徒の育成につなげる	①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピック、数学検定等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める ②授業内容の質を高め、教材の精選を図る ③生徒一人一人が、数学の学習を通して成長できるような指導の取り組みを工夫する ④週テストの実施を、生徒の数学の学習意欲向上に繋げる	B	授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではない生徒間の学力・意欲・取り組む姿勢に大きな差が見られ、担当の教師の創意工夫が一層必要となる週1回の確認テストは、問題作成、採点、補講と数学科職員の負担が大きいが、生徒の基礎学力の定着につながってはいる教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい	本年度の体制を継続してさらに生徒の数学力の向上につなげていく中学生にどのレベルで指導するか、教材の選定も含めて今後の課題であるので継続して検討を進めていきたい確認テストへの対応や課題等の内容についても教科全職員の協力に対応を進めたいそのためにも常勤の職員の増員、確保は確実に実現してもらいたい
理科	①科学的興味関心の向上 ②科学的思考力の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得	①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの書き方の指導を行う	B	①展示実験をして具体的な現象を見せたが、器具の不足でビデオなどで補った ②新型コロナ感染拡大以前のように実験室でできるだけ、実験実習を行った ③レポート指導を行い、実験のまとめ方の指導を行った	○教科書の内容だけでなく、より高度な内容や興味を引くようなことを授業に取り入れる ○授業をより理解しやすくする実験を計画する ○実験用具を揃えること ○実験レポートの作成・発表を生徒が行う ○自主的、創造的な学習方法を行う
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の修得 ③事故やケガの予防・防止 ④感染症予防・対策	①念入りな準備運動と積極的な体づくり運動の実施 ②基本動作の反復練習を積極的に取り入れつつ楽しめる工夫 ③用具や施設・設備の点検、準備運動やクールダウンの実践、生徒の意識向上 ④情報収集と換気・手洗い・咳エチケットの徹底	A	①雨天や熱中症警戒アラートのおかげもあり、念入りに実施できた ②暑さ対策の休憩時間の確保により、十分な反復練習ができたとはいえない ③用具や施設・設備の点検、生徒への声かけもこまめに実施できた ④教職員からだけでなく、保健委員会も放送や声かけを実践できた	①②感染症情報や熱中症警戒アラートを意識的に確認し、運動量の確保を工夫したい ③④当たり前に実践できるよう継続的に声かけ・指導する
外国語	①学びの習慣づけと基礎学力の定着 ②5技能のバランスよい能力向上 ③中高一貫6年間の各学年でのCan Do Listの作成	①毎時間小テストを実施し、課題もこまめに提出させ、チェックを行う ②技能融合(Reading-Writing/SpeakingやLsitening-Writing/Speaking)の活動の実践 ③今年度は作成のための準備の1年とする	B	①小テスト・課題への取り組みを検証する ②定期考査でも技能融合型の問題を出す ③他校に学ぶ	①週テストを実施するのであれば、定期考査を減らすことを検討してほしい ②プロジェクト学習を導入 ③案を早い段階で作成し、教科内で検討する
技術家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学び合う ③現代社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習・実習内容の精査 ③研修・研究の実施	B	①小テストや、課題プリントを出したことにより、しっかり復習をできた生徒は、定期考査でもよく点数を取っていた ②技術家庭とともに、コロナ以前のように実習を増やしている ③昨年度までの継続はできたが、新たに入ってきた分野等の研修が足りなかった	①定期考査の点数が低い生徒に対して、別のアプローチ方法を検討する必要がある ②実習は生徒たちもよく取り組む今年度家庭科では、実習で得た技術を、きちんと再現できるか確かめるための実技のテストも導入した ③更なる教材研究や研修会を行っていききたい

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし

教科指導

高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
国語	<ul style="list-style-type: none"> ①国語への興味・関心を持たせる ②基礎的な国語力の育成を計る ③進路希望達成のための国語力を育てる ④自己の考えを効果的に表現できる力を育成する ⑤本校入試問題作成手順の確立し、早期の作成を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業へ電子機器を利用するための工夫と準備 ②教材の精選 ③高I新課程「現代の国語」「言語文化」の授業内容の研究 ④基礎事項（語彙・文法事項等）の反復学習作文や俳句などのコンクールへの参加 ⑤入試問題については、4月に作成計画を立て、夏休み前には素材文を決定し、8月からは問題検討に入る 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①高I、IIでは、電子機器の利用ができた ②教材の精選、基礎事項の反復については、課題が残る高IIIになっても十分とは言えない状況がある ③高Iの新課程の授業内容については、一応の成果が出ている ④今年度も作文や短歌、俳句コンクールで入賞できた本年度も高II年で浄土宗平和作文に取り組んだ ⑤高校入試が新課程に対応しきれているとは言えないため、今後要検討である入試問題の作成については、早めの準備ができたが、仕上がるまでに時間がかかった 	<ul style="list-style-type: none"> ①新課程「文学国語」「論理国語」「古典探求」の授業内容の研究 ②新課程入試に係る問題研究 ③高校入試の内容について検討し、新課程入試を見据えたものにしていく必要がある入試問題作成については、今年度の作成計画を継続し、早めに完成できるようにする
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎的な知識を身につけ、理解を深める ②社会事象に、興味関心を持ち、主体的に考え、行動する力を養う ③近年の入試において、「複数の資料から傾向や規則性を読み取る力」「時間軸と空間軸をふまえた事象をとらえる力」が要求されている単なる知識ではなく、思考力や判断力を身につけさせる指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①スライドやワークシートを適宜利用するなど授業内容の工夫に取り組み、基礎的な知識を習得できるように指導する ②新聞やテレビ、インターネットなどの情報を授業に活用し、世界や日本国内の動向に目を向けさせ、興味関心を持つように指導する ③科目ごとに入試情報を共有し、生徒の進路目標達成に役立たせる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①②各科目ごとに、新聞や視聴覚教材等を用いて、授業内容を工夫し、基礎的な知識を習得させることができた ③各科目ごとに、入試情報を共有し、定期考査問題作成に反映させるなど、ある程度できているが、まだ十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> ①②各科目ごとに、授業内容を工夫し、さらに改善点を見つけ出し、努力を重ねたい ③入試情報を共有し、新課程入試に係る問題研究を行うできるだけ早く教科書の内容を終え、テーマ別学習や入試問題演習を充実させていきたい
数学	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の、高校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育てる ②各自の進路希望を達成できる、数学の学力を養成する ③各コース間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、効果的な生徒の育成につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピックや数学甲子園等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る ③入試情報などを共有し、生徒の進路達成に役立たせる ④高校1年生は夏休みを利用して課題研究の取り組みを行い、レポートを提出させる ⑤週テストの実施を、生徒の数学の学習意欲向上に繋げる 	B	<p>授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではないコースごとの異なる進度、取り組む教材の難易度に差があるので、担当の教師の創意工夫が一層必要となる現2年生から始まった新学習指導要領への対応は生徒の状況を見ながら対応が進められた週1回の確認テストは、問題作成、採点、補講と数学科職員の負担が大きい。生徒の基礎学力の定着につながってはいる教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい</p>	<p>本年度の体制を継続してさらに生徒の数学力の向上につなげたい新学習指導要領への対応が、学年進行で進むので全国の状況を注視しながら対応していく高Iに課している夏休みの課題研究は生徒の意欲向上につながっていると思われる次年度以降もぜひ継続したいので冊子印刷への予算支出をお願いしていきたい確認テストへの対応や課題等の内容についても教科全職員の協力に対応を進めたいそのためにも常勤の職員の増員、確保は確実に実現してもらいたい</p>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ①科学的興味関心の向上 ②科学的思考力の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得 	<ul style="list-style-type: none"> ①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの書き方の指導を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①展示実験をして具体的な現象を見せたが、器具の不足でビデオなどで補った ②新型コロナウイルス感染拡大以前のように実験室でできるだけ、実験実習を行った ③レポート指導を行い、実験のまとめ方の指導を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の内容だけでなく、より高度な内容や興味を引くようなことを授業に取り入れる ○授業をより理解しやすくする実験を計画する ○実験用具を揃えること ○実験レポートの作成や他の人への説明を生徒が行う ○自主的、創造的な学習方法を行う

高校 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項	来年度へ向けての改善点
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の修得 ③事故やケガの予防・防止 ④感染症予防・対策	①念入りな準備運動と積極的な体づくり運動の実施 ②基本動作の反復練習を積極的に取り入れつつ楽しめる工夫 ③用具や施設・設備の点検、準備運動やクールダウンの実践、生徒の意識向上 ④情報収集と換気・手洗い・咳エチケットの徹底	A	①雨天や熱中症警戒アラートのおかげもあり、念入りに実施できた ②暑さ対策の休憩時間の確保により、十分な反復練習ができたとはいえないが、男女共修に向けての取り組みを徐々に進め、「見て学ぶ体育」への意識づけはできた ③用具や施設・設備の点検、生徒への声かけもこまめに実施できた ④教職員からだけでなく、保健委員会も放送や声かけを実践できた	①②感染症情報や熱中症警戒アラートを意識的に確認し、運動量の確保を工夫した。また、男女共修に向けての取り組みを進める ③④当たり前前に実践できるよう継続的に声かけ・指導する
外国語	①新課程に対応した5技能のバランスよい能力の向上 ②大学入試「新テスト」に対応する教材の充実 ③中高一貫6年間の指導カリキュラムの充実	①高校1、2年におけるActive Learningの充実 ②過去の教材と新教材の比較とそのミックスを行う ③大きな流れを全員で確認し、その流れの中で各学年での充実を考える	B	①GTECのスコアが出てから、授業の取り組みも含め、検証したい ②大学入試結果を踏まえて、3年各担当者でまずは教材の検証を行い、次年度担当者にフィードバックする ③①との関連も含め、流れに変更が必要かどうかを検証する	①高校2年での論理表現の授業展開を検討する ②大学入試問題研究を充実させる ③小中高の接続に関する研究を行う
家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習・実験内容の精査 ③研修・研究の実施	B	①食生活・保育を中心に家庭科の基礎基本を身に付けるような授業ができた ②今年度より、新型コロナウイルス感染症以前のように調理実習を再開した被服実習は、これまでの反省を活かした実習ができた ③これまでの認知症に関連した内容はできたが、昨年度から変わった取り組みはできなかった	基礎基本の徹底は引き続き継続し、生徒が自分の暮らしと照らし合わせて考える時間も増やしていきたい実習については、時間や習得させたい能力に応じて、まだ改善できる部分がありそうである。また、調理・被服以外の実習を増やしたい研修や研究は、高齢者や福祉・消費生活の内容を学べるような研修会をやりたい
情報	①新課程情報Ⅰの開始にあたり、指導内容の精選を図る ②また、ICT環境の整備を充実し、教科情報の基盤作りを強化する ③各教科での情報活用能力育成をにらんだ基礎的な技能や思考力を更に充実する必要がある	①プログラミング言語取得のための新たな教材導入及び共通テストに向けた指導内容の改善を行いながら指導してきた ②中学部の一人1台のタブレットPCの導入が完了し、高校の一人1台の環境を整備するべく基本内容の策定を行っている途中である ③探究活動を積極的に取り入れ、その際にICT環境が積極的にいかす授業展開を積極的に行った	B	①情報の共通テスト導入を踏まえ、プログラミング言語領域とデータ分析の領域の強化を計画的に更に図るべきである ②ICT環境を情報の観点から整備が急速に進んだ。今後は一人1台の環境が通常の授業形態に日常的に生かされるように方策を構築していくべきである ③多様化する大学入試に対応していくためにも探究学習で得た知見や、ICT活用の経験は様々な場面で活用していくように企図していくべきだと考える	①共通テストの実施を踏まえた指導内容の改善と強化を丁寧に行う ②文部科学省による実証事業で「学習者用デジタル教科書」の積極的活用を中学校を中心に実施したが、その総括と今後の活用策の改善を図る ③各学年の探究活動と「情報Ⅰ」及びICT環境等を積極的に関連付けて、横断的な取組の充実を図りたい

4段階評価	A：大いに改善あり B：だいたい改善あり
	C：やや改善なし D：全く改善なし